Y02a　国立天文台野辺山における一般見学者の意識調査

○下井倉ともみ、伊王野大介、篠原徳之、御子柴廣、川辺良平（国立天文台野辺山）

国立天文台野辺山では、1983 年より観測所内一部に見学コースを設置し、一般へ公開している。見学は特定時期を除いた年間を通じて可能である。平成 20 年度は年間 55,987 人が訪れ、昨年までの累計来所者はのべ 269 万人を超えた。

今回、野辺山の広報委員会は、次の 2 点を目的として一般見学者への調査を実施した。1、個人の意識実体（国立天文台野辺山へ期待することや満足度等）を定量的に把握する。2、今後の広報計画の方針・戦略・施策などを立案するためのヒントや情報を得る。調査方法は、見学を終えた見学者に対して広報委員が調査協力を呼びかけ、調査表に記入していただいた。

これまでの調査結果は以下のとおりである。

来所目的は、「観光」の次に「宇宙、天文に興味があるため」が多い。また、1 回以上の来所経験のあるリピーターが当初予想よりもはるかに多く、再来所意向はリピーターの方が高い傾向にある。「宇宙はロマンがある」との回答がほとんどを占める一方で、「宇宙の研究は自分とは無関係」かどうか、を尋ねた項目では‘そう思う’から‘そう思わない’まで回答が分散した。「見学して楽しかったか」の質問からは満足度の高さが明らかとなったが、「学ぶことができたか」については‘どちらとも言えない’との回答数が多くなり、満足度が下がっている。さらに「電波天文学は難しい」との回答が目立ち、自由意見では、構内の解説パネル改善を求める声が多かった。これを受け、現在、構内解説パネルの更新準備を進めている。

調査は現在も実施中である。本講演では、より定量的に調査結果をまとめ、観測所が一般の方から期待されていることについて考察する予定である。